

I 信仰による働きにも時がある。：27-28。

1. モーセが信仰によって地位と物資的に最も恵まれているエジプトを立ち去ったのは、40歳の時だった（使徒7：23）。実際にモーセがエジプトからイスラエル人を救出するように主から召し出されたのは、それから40年後、80歳の時だった。

2. この事から学べるのは、

①主の御業には、いつも主の時があるという事。人間的にあせり過ぎたり、怠慢で遅れ過ぎてはいけない。  
②もし、モーセが40歳の時だったら、「自分が何とかしなければ？」という気持ちが強過ぎて、自分の力に頼り、真に主に拠り頼む事ができなかつただろう。

③ミデヤンの地での生活は、エジプト時代とは比較にならないほど貧しい、地味な生活、厳しい生活。しかし、それは無駄ではなく、モーセにとり、良い訓練となり、彼をたくましくした。又年月を経て、無駄な力はなくなった。

主は、私達を愛する故に、謙遜と聖さを与え成長させる為に訓練して下さる（ヘブル12章）。

成功だけが人を育てるのではない。失敗、つらさ、忍耐、苦しみを通して成長させられる。

主は、私達をも、何歳になっても用いて下さる。

天国に行くまで、相應しい奉仕、使命を用意し、愛し用いて下さる。ハレルヤ！

II 永遠の滅びを「過ぎ越させて」下さる神への信仰。

「信仰によって、彼は、長子を滅ぼす者が自分たちに触れることがないように、過越しの食事をし、血を振りかけました」：28。

1. 神は、まず、九つの災害をもってエジプトを打たれた。しかし、エジプトの王は、最後まで、心をかたくなにし、すぐに、心を翻し、神に抵抗した（出7：14-11章）。

私たち人間の罪（高ぶり、神に逆らう）の姿も同じ。

そこで、神は、十番目の最後のさばきとして、エジプトの地のすべての初子（人間の長子、家畜の初子まで）の命を取られた（出12：29）。

しかし、神の命令に従い、かもいと門柱にいけにえの血（新約時代のイエス様の十字架の血を指し示す）が塗られている家は、初子を滅ぼさずに「過ぎ越す」（命を救う）と約束された（出12：13）。

この神の支持は、畏れ多いものだった。また、そのいけにえの血は、傷のない羊の血（「あなたがたの羊は、傷のない一歳の雄でなければならない」出12：5）、傷のない＝罪のないイエス様の十字架のいけにえとしての血を示していた。

神を信じる人々は、神のことばを素直に信じて、主が命じられた通りに行った（出12：28）。

そして、彼らは、神のさばき、滅び、命が取られる事から救われた。

2. これから学べること。

①神に対して、心を頑固、かたくなにせず、みことばを素直に信じて、従うことの大切さ、恵み。

②この滅びからの「過越しの」羊の血は、私達の罪（不品行、偶像礼拝、憎しみ、うらみ、嘘、陰口、悪口、いじめ、不品行に繋がる泥酔・悪い遊び、不正等）の償いとして、十字架で流された罪のないイエス様の聖なる血を示していた。日々、そして聖餐式の度に、自分の罪に対する永遠のさばき、滅び、地獄から救って下さった主の十字架の血の計り知れない尊い恵みを心から感謝したい！

III 不可能と思える所を、しっかりと渡らせて下さる神への信仰。

「信仰によって、人々は乾いた陸地に行くのと同じように紅海を渡りました。エジプト人たちは同じことをしようとしましたが、水に呑み込まれてしまいました」：29。

1. イスラエル人は、追い迫るエジプトの軍隊を見て、非常に恐れ、モーセを非難した（出14：10-12）。しかし、モーセは彼らに「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい」（出14：13）と励ます。そして民たちも主を信頼し、神が海の水を右と左に分けられた。「海の真ん中の乾いた地面を進んで行った。水は彼らのために右も左も壁になった。」出14：22。後を追ったエジプトの軍隊が水の中に入ると「主はエジプト人を海のただ中に投げ込まれた」14：27。

2. ここから学べること。

- ①神の力、偉大さ、救いの素晴らしさ。神は、今も、困難で不可能に見える中で、信じる者に力を与え、困難を乗り越えさせて下さる。荒波の時も人生の海を渡らせて下さる。
- ②つらい時、問題という軍隊にのみ目を向けるのではなく、全能の主を見つめる信仰の大切さ。
- ③互いに不信仰になり易いので、励まし合う事の大切さ。そして、少しずつ、他人からの借り物の信仰ではなく、自分の信仰を身に着けて行く。
- ④対照的な二つの結末が待っている。主を信じ従う者への偉大な救いと主を信じないで逆らい続ける者への厳粛なさばき、滅び、永遠の地獄の苦しみ。主は、一人の人でも滅びるのを望まず、主を信じ、救われるのを待っておられる。私達も、主を信じ、素晴らしい主を家族、知人に伝えよう！

IV 決して動かぬ城壁を崩して下さる神への信仰。

「信仰によって、人々が七日間エリコの周囲を回ると、その城壁は崩れ落ちました」：30。

1. 当時、エリコは、カナンのカの象徴のような町だった。それを陥落させるのは不可能に思われていた。ところが主は、指導者のヨシュアに向かって、町の周囲を一度ずつ六日間回り、七日目には七度、町を回って、先頭にいる七人の祭司が角笛を長く吹き鳴らした時、城壁は崩れ落ちた。ヨシュア6：1-20。

2. ここから学べること。

- ①不思議に思える神のことばにも、信じて、その通りに行動した時、奇蹟が起きた。私達も、神の約束を信じて実践する時、神の力を体験する。
- ②私達も、人間的に見れば、決して崩れないと思える問題、困難にぶち当たる。しかし、神は、その困難、城壁よりも強いお方である。あきらめずに、この方を信じ、祈りつつ働きかけよう。人間の心も固い城壁である。しかし、私達が、全能の神を信頼して祈りつつ、その人に愛を示し続ける時、神は、その人の心を柔らかくし、造り変えて下さる。また、人生の問題も、自分の力を越えたことが沢山起こる。ある時は、そのような相談も、受ける。その時、あきらめずに、祈り続けよう。神は、確かに耳を傾けて下さる。「耐えられない試練にあわせることはなさいません」Ⅰコリント10：13。